

柿生駅から徒歩10分程の閑静な住宅街に10年前に引っ越してきた木村さん一家。ドイツ語などを教える大学教授のご主人は、3・11がきっかけでエコジカルでシンプルな生活を意識するようになった。冬の寒さを対策したいこと、そして「なるべく電気に頼らない」「風通し」「集い、楽しむ」の3つをキーワードに、リノベーションに踏み切った。

エアコンなしで快適に住めるように、色々な工夫が施された。断熱材がなかった壁には自然素材のセルロースファイバーを、既存窓の内側には高断熱性能窓を設置。外気を遮断する玄関框のサッシは奥様の出身地・北海道仕様だ。木質燃料を使うペレットストーブの暖かい空気が2階にも循環するよう通気孔をつけた。一方、夏の西陽対策はエントランス前に新たに植えた3

本の木。これらの対策と太陽光発電で、木村家では光熱費がかららない生活が実現できているのだ。

ジュンペリーの実が赤く色づいた庭で家族そろって朝食を取るのが、最近の日曜日のスタイルだ。晴れた午後には自転車で出かけ、雨が降れば、ボードゲームに興じる。「電気に頼らなくても生活はそんなに困らない。土鍋で炊いたご飯の美味しさやボンボン時計の音。逆に暮らした豊かになった気がする。以前の家は暗い雰囲気が好きじゃなかったが、ここまで変わるとは思ってもいなかった。」

杉板を多用し、家の中は木の香りに包まれている。1階は以前あった廊下や、キッチンとダイニング間の壁を撤去し、広々としたLDKに生まれ変わった。クリスマスパーティーでは、キッチンと食卓の間の大きなカウンターに奥様が腕を奮ったドイツ料理がたくさん並び、大勢の来客が集う。

2階の東側には借景が美しいご主人の書斎と書庫、夫婦の寝室とクローゼットを配置。広いワンルームに柱を作ることなく、家具や可動式の杉パネルで圧迫感のない空間に。一部屋を2つに分けた子ども部屋も、階段上のデッドスペースに

新築ではない、もう一つの住まい方 「中古住宅の暮らし替え」

ベースとなる家の状態や地形を踏まえ、新しい暮らし方と住宅性能の向上を同時に提案した、築35年の中古住宅のリノベーションレポートです。



1. ずっしりとしたカウンター下は以前使っていた古い食器棚を使用した 2. 2階の子ども部屋前の本棚は大正時代から祖父母が使っていたもの 3. 寝室から書斎を望む。書斎裏には書籍類が収納される書庫 4. 階段ホールから書斎を見る。間仕切り壁の上部を抜いて空間の広がり明るさを得ている。本棚は固定されているので地震のときも安心だ 5. 車がないので駐車場は撤去し、土間コンクリートを砕いて石畳風に敷き詰めた。捨てずに使えるものは使う、ものを無駄にしない工夫が木村家のポリシーだ。植えたばかりの3本の木で森を作るのが理想だという

ベッドを作り、十分なスペースを確保した。ベッドから階段を見下ろせる小窓からは時々子どもたちが顔を覗かせる。

美術教師の奥様が以前作った木製の家具や、古い年代ものの家具も配されレトロで落ち着いた雰囲気を出す。今も現役足の踏みつけたダイヤル式の電話もエコな暮らしを支える優れもの。

「以前はプラスチックでできた家のように、手を加えられなかった。これから壁に絵を描いたり、棚を付けたら、楽しみながら仕上げをしていきたい。」木村邸のリノベーションは始まったばかりかもしれない。



株式会社 鈴木工務店
195-0053 東京都町田市能ヶ谷3-6-22
tel 042-735-5771 fax 042-735-3323
www.suzuki-koututen.co.jp

